

<p><b>★学校教育目標</b> ○たくましい子 ○たすけあう子 ○かながえる子</p> <p><b>★目指す学校像（ビジョン）</b></p> <p><b>【目指す児童・生徒像】</b> ○たくましい子「心身ともに健康な体・行動力」「社会貢献力」 ○たすけあう子「豊かな感性・創造性」「人間関係形成力」「自己肯定感」 ○かながえる子「基礎・基本となる力」「表現力・発信力」「対話力」「自己有用感」</p> <p><b>【目指す学校像】</b> みんなが安心・成長できる学校</p> <p><b>【目指す教員像】</b> すべてのいのちを守り育む教師○子供一人一人を大切にしたい温かい学校をつくる教師○地域をステージにし、主体的・対話的で深い学びを創造できる教師○生活科・総合的な学習の時間、特別支援教育の専門的知識や技能を身に付けた教師</p>	<p><b>★重点計画の概要</b></p> <p>日野市第4次学校教育基本構想「学びの革新」プロジェクトに基づき、学校経営目標を「みんなが安心・成長できる学校」とし、学校・子供・家庭地域の総力で、確かな学力の育成、豊かな心、社会性の育成、心身の健康・粘り強さの育成、安全・安心な教育環境の整備を図っていく。</p>
--	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩みを進めようとする	学校安全の充実と教育環境の整備を図る。	自他を大切にし、いじめや不登校が発生しにくい土壌を、子供、学校、保護者、地域、関係機関で醸成する。	○3回のふれあい月間を核として、「学校のよりよい雰囲気をつくるための指導」と「いじめ防止の指導」を行い、いじめや不登校が発生しにくい土壌をつくる。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上	4	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の嫌なことをしていない児童が85%以上</li> <li>友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上</li> <li>友だちに嫌なことをしていない児童が75%以上</li> <li>友だちに嫌なことをしていない児童が75%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「行方着の意図が受け手に正しく伝わる」とは限らないということ。一人一人が違ったよさをもちたいことを対話を通して気付かめ合い、理解できるよう働きかけを行っていくことが必要である。</li> <li>「ふれあい月間」を核とした児童との個人面談の機会を設けることを今後も継続していく。</li> <li>2ヶ月ごとのアンケートは形骸化の可能性があるので、実施結果のフォローアップを今後も丁寧にこなしていく。</li> </ul>
			○1日頃から子供の変化を観察するとともに、生活アンケート（5月、7月、9月、11月、2月）を実施して、いじめの未然防止、早期発見を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が75%以上	4	友だちに嫌なことをしていない児童が75%以上		
			○年間を通して、学期に1回、道徳科で友情・信頼・思いやり等に関する授業を実施する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が70%以上	3	友だちに嫌なことをしていない児童が70%以上		
			○欠席が3日以上継続した場合は直ちに家庭に連絡を取り、子供についての情報共有と行動連携を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が65%以上	2	友だちに嫌なことをしていない児童が65%以上		
みんなの多様な学びを促す	対話を軸に探究的な見方・考え方を学ぶことにより、確かな学力を育成する。	日野スタンダード（UDユニバーサルデザイン）の授業を基本として、一徹一貫の学びから、自分を知り、相手を知り、自分たちで考え、語り合いながら生み出す学び合いと活動を実践する。	○「教わる」だけでなく、各教科等で対話を通して、子供たち自身が分かち合うための個別学習・教え合い学習を行い、みんなが参加し、ともに知識を出し合う対話的・探究的な活動を実践する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が75%未満	1	友だちに嫌なことをしていない児童が75%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>「困ったときは、身近な大人や友だちに相談できる」という児童が75%以上</li> <li>「困ったときは、身近な大人や友だちに相談できる」という児童が70%以上</li> <li>「困ったときは、身近な大人や友だちに相談できる」という児童が65%以上</li> <li>「困ったときは、身近な大人や友だちに相談できる」という児童が65%未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「相談しやすい人」をどう作っていくのか保護者も子供と一緒に地域に届け込む必要がある。</li> <li>日常生活で接する機会が多い大人は親と教員で、子供たちに与える影響の大きさを考えたとき、地域の大人の支援が必要である。</li> </ul>
			○授業のユニバーサルデザインに基づく問題解決型の授業を通し、できる楽しさ、分る楽しさ、認められる楽しさを味わわせる授業を実践する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上	3	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上		
			○外遊びの推進、体育授業での運動量の確保、体力向上を図る取組を組み合わせて、運動に親しむ態度を育む。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上	2	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上		
			○外部講師を招聘し「本物に触れる体験授業」を実施し、授業改善を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上	1	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上		
社会と未来に関わり、みんなが育つ	地域をステージとした学びを通して、自己有用感を味わわせ、豊かな人間性と社会性の育成を図る。	学校・保護者・地域と共に、生活科・総合的な学習の時間を中心に、一人ひとりが多様な学び方で、対話しながら探究的に学ぶ教育活動を推進する。	○外部講師を招聘し「本物に触れる体験授業」を実施し、授業改善を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上	4	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のコミュニケーションを大切に、一方的に教わるだけでなく友達同士の意見交換の中から何かを見つけたら努力を子供たちにもって欲しい。</li> <li>教員自身の努力や工夫により、探究的な学習が行われていること、対話を通して児童自身の気付きが生まれ、学習意欲やより深い理解へとつながっていることが分かる。</li> <li>教職員の意識、児童の意欲共に評価が高いのはとてもよいことである。</li> <li>校庭が狭いが、工夫して遊びを考えると工夫のできることを教師が手助けしてあげるとよい。</li> <li>体を動かすことで様々なよい効果があることを、子供たちはしっかりと学んでいることが分かる。</li> </ul>	
			○遊びの推進、体育授業での運動量の確保、体力向上を図る取組を組み合わせて、運動に親しむ態度を育む。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上	3	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上		
			○外部講師を招聘し「本物に触れる体験授業」を実施し、授業改善を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上	2	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上		
			○外部講師を招聘し「本物に触れる体験授業」を実施し、授業改善を図る。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が80%未満	1	友だちに嫌なことをしていない児童が80%未満		
社会と未来に関わり、みんなが育つ	地域をステージとした学びを通して、自己有用感を味わわせ、豊かな人間性と社会性の育成を図る。	学校・保護者・地域と共に、生活科・総合的な学習の時間を中心に、一人ひとりが多様な学び方で、対話しながら探究的に学ぶ教育活動を推進する。	○コミュニティ・スクールを活用し、より一層地域参画型の教育活動や地域人材を活用した体験学習等、地域をステージとした学びを充実させる。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上	4	友だちに嫌なことをしていない児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自然教育の林」を教職員が多く活用し、地域の人材を活用して学びを深めていくことを今後も継続してほしい。</li> <li>安全や防犯面で難しいのかもしれないが、以前より挨拶をする子が少なくなっている。</li> </ul>	
			○年間を通して、学校図書館スーパーバイザーを講師として招聘し、「学びの情報センタープロジェクト」を推進するとともに、全学年全児童に調べ学習の基礎と基本を習得させる授業を実施する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上	3	友だちに嫌なことをしていない児童が85%以上		
			○年間を通して、学校図書館スーパーバイザーを講師として招聘し、「学びの情報センタープロジェクト」を推進するとともに、全学年全児童に調べ学習の基礎と基本を習得させる授業を実施する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上	2	友だちに嫌なことをしていない児童が80%以上		
			○年間を通して、学校図書館スーパーバイザーを講師として招聘し、「学びの情報センタープロジェクト」を推進するとともに、全学年全児童に調べ学習の基礎と基本を習得させる授業を実施する。	4	友だちに嫌なことをしていない児童が75%以上	1	友だちに嫌なことをしていない児童が75%以上		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。

A3

【設定の仕方について】

- 記入できるのは、「公表」「自校の分析」「改善策」「評価点」のみです。要らない行は削除するか、セルの高さをつめてください。
- 印刷範囲は決めていますので、セルの幅を用紙サイズに合わせてください。（印刷プレビューで確認をしようまいくきます）
- 印刷設定でA3になっています。
- 2枚にすることもできます。